

## 渡邊妙子館長が語る 「名物刀剣 宝物の日本刀」展の見どころ

10月22日(土)~12月18日(日)まで、「名物刀剣 宝物の日本刀」展を開催いたします。国宝10点、重文25点を合わせ刀剣約50点を展示いたします。

お勧めの刀をご紹介します。

### 1、「国宝 金象嵌銘 光忠/光徳(花押)」

これは織田信長が大切にされた代表的な刀の一つで、今回の展覧会で初公開される注目の刀です。信長は光忠の刀を30本程集めたといわれていますが、その中の1本です。

鉄の色がきれいで、桜が満開に咲いたような波紋が見てとれます。金象嵌は本阿弥光徳という名鑑定家が入れました。何十年の間、表に出たことがなかったため、ぜひじっくりと見ていただきたいです。

織田信長がどれほど感性の鋭く豊かだったかが、好んだ刀を見ることによって信長の好みがよくわかります。

### 2、「国宝 助真」

徳川家康が好んだ刀です。家康のもとには天下の名刀が沢山献上されました。この刀は加藤清正から家康に献上された

刀です。備前刀の中で、最も華やかな刀といわれています。家康の息子の秀忠が、東照大権現を祀る日光東照宮に奉納しました。

その他、厳島神社の秘蔵の刀、平安時代につくられた「国宝 太刀 銘 友成作」など名刀を展示いたします。平安時代の刀が残っていることはすごいことで、刀から、その刀を使った武将の姿が想像できます。ぜひとも、実物を間近で見て、感じ取っててください。

さて、武家の政権を初めて鎌倉につくったのは源頼朝です。頼朝は武功をたてた武将に名刀を下賜しました。例えば、那須与一(屋島の戦いで軍船に掲げられた扇の的を射った武将)、佐原義連(一ノ谷の合戦で義経が鴨越をしたとき、尻込みする武将たちを鼓舞して真っ先に飛び降りた武将)、工藤祐時(頼朝の側近)などに備前の名工成高の太刀を与えました。

このように、800年も前の刀が、その美しさを保ったまま現在まで伝えられているのは、世界に例がありません。所蔵者の行き届いた手入れはもちろん、伝えられた側の祖先への感謝の気持ち、一族の誇り、日本刀に対する敬虔な気持ちが伺えます。物というものは、大事に扱えば、その気持ちに込められて、日本人の物に対する考え、大事にする気持ちによって、日本刀は現代まで美しく伝えられているのです。

佐野美術館賛助会  
ミュージッククラブ会報



横田年昭

# ミュージック交歓

NUMBER

8

2011.9

佐野美術館と皆さまをつなぐ

## イベント予告 **秋**の注目イベント

### 十三夜の宴

毎年、十三夜に開催しております月と音楽を楽しむ演奏会「十三夜の宴」。今年は笛奏者の横田年昭さんをお招きします。横田さんは1944年東京生まれ。17歳でプロ入りし、「猪俣猛とサウンドリミテッド」で活躍した、日本のジャズフルーティストの草分け的存在です。

現在は伊豆稲取の海辺に工房をかまえ、演奏活動の傍ら、豊かな自然の中で笛や竹楽器を自ら制作しています。主に尺八、横笛、弥生笛といった伝統的な日本の笛に加え、石笛や土笛など、自らのアイデアで創作したオリジナル楽器は多岐

にわたります。それらを駆使して独自の音楽世界を作り上げ、国内外で演奏活動を続けています。

映画音楽では、ベルリン映画祭出品「さらば愛しき大地」の音楽を担当しブルーリボンスタッフ賞を受賞、山田洋次監督作品「たそがれ清兵衛」の音楽などにも参加しています。時に幽玄で神秘的な和風の演奏、時にリズムカルでダイナミックなフルートの演奏、変幻自在に笛を操る横田さんの音楽世界に、どうぞご期待下さい。

演奏会終了後は、登録有形文化財「隆泉苑」の庭園内に温かいお食事をご用意しております。

日時：平成23年10月9日(日) 17:00開場/17:30開宴  
会費：会員/3,000円 非会員/4,000円  
定員：約100名(要申込・先着順)  
会場：佐野美術館庭園内「隆泉苑」

### 秋の芸術鑑賞日帰りバス旅行

これまで、年1回夏に開催しておりました芸術鑑賞日帰りバス旅行ですが、ご好評につき今年も秋にも開催が決定いたしました。秋の旅は、歴史的な建造物や美術館、老舗のホテルなどを訪ねます。

まず、丸の内の新名所として昨年話題をさらった「三菱一号館美術館」。ジョサイア・コンドルにより設計された旧三菱一号館を可能な限り復元し、昨年リニューアルオープンしました。19世紀を中心とした近代美術品を多く所有し、中でもフランスの画家ロートレックのポスターおよびリトグラフは200点を超えます。今

回は、この「ロートレック展」を鑑賞していただきます。

続いて、同じくコンドルが設計した「旧岩崎邸庭園」を訪れます。ここは三菱創設者の邸宅として建てられた木造のヨーロッパ式邸宅で、随所に繊細で見事な装飾デザインが施され、往時のままの雰囲気を与えています。

見学後は、国内初の本格的な西洋風ホテル「帝国ホテル」で、昼食をとり、自由時間を丸ビルでお過ごしいただきます。都内のアート&観光スポットを巡る一日。皆さま、お誘い合わせの上ぜひご参加ください。

日時：平成23年11月中旬  
会費：未定  
定員：約50名(要申込・先着順)  
※詳細は開催日から約2カ月前に郵送でご案内致します。



旧岩崎邸庭園

国宝 刀 金象嵌銘 光忠/光徳(花押) 鎌倉時代(13世紀) 個人蔵



国宝 太刀 銘 助真 号 日光助真 鎌倉時代(13世紀) 日光東照宮蔵



**新規入会者** (敬称略、50音順) 平成23年2月1日~平成23年7月31日まで

《ゴールド会員》 岸香代子、支店長 佐野洋子、鈴木陽、和田早智子

《正会員》 市川朝一、江間恵美子、遠藤マサ子、大澤秀子、大庭はつ、奥主泰司、小野啓一、鴻野美美江、瀬川美奈子、高橋朋子、田口一郎、丹澤政仁、土屋迪枝、中村信子、長尾範子、新美貴美代、野本信之助、野本優子、保科克之、宮内正敏、村松京子、山本洋子、吉田秀夫

佐野美術館賛助会ミュージッククラブ会報『ミュージック交歓』 2011年9月号(第8号)

発行日:2011年9月1日 編集・発行:佐野美術館賛助会ミュージッククラブ

住所:〒411-0838静岡県三島市中田町1-43 佐野美術館内 TEL:055-975-7278/FAX:055-973-1790

ホームページ:http://www.sanobi.or.jp メール:mc@sanobi.or.jp

# 上半期活動報告



林家ぼたん

## 会員のつどい

平成23年4月29日(金・祝)

新年度の総会として、平成22年度の事業報告と23年度の予算発表をいたしました。報告会終了後は、余興として林家ぼたんさんの落語や懇親会を楽しみました。女性の囃家さんは、非常に少ないとのこと！貴重で愉快なお話に、思う存分笑わせていただきました。



## 歌舞伎鑑賞日帰りバス旅行

平成23年7月6日(水)

今年恒例の歌舞伎鑑賞に加え、充実した西洋美術コレクションで知られるブリヂストン美術館、皇室の名宝が集まる三の丸尚蔵館、京王プラザホテルでbuffet形式のご昼食と、例年より一か所訪問場所を多くしての開催となりました。古典芸能やアートを巡る盛り沢山の内容の旅行となりました。



## 😊 バス旅行参加者の声 😊

- 日本の美術染織の見事な作品に感動いたしました。また、歌舞伎の世界にも触れ、大変満足いたしました。初めて参加でき、楽しい一日でした。
- 三の丸尚蔵館で重々しい織物や染物、刺繍など拝見できたことは、大変嬉しいことでした。また、歌舞伎の渡海屋の場面は、初めての鑑賞だったため感激いたしました。ブリヂストン美術館では、セザンヌやモネの絵を見ることができて良かったです。
- 歌舞伎の内容が分かりやすくて良かった。また参加したい。
- 初めて参加させていただきました。とても良かったです。ただ、あまり歩くのはやめてほしいです。
- 美術館2カ所、歌舞伎、ホテルでのランチと盛りだくさんの楽しい旅でした。歌舞伎鑑賞教室が価格、分かりやすさ、内容ともによかったです。
- 歌舞伎の銀平の活躍が特に良かった。安德帝の子供ながら不動の演技、セリフに感心した。
- 出来れば時期を考慮してほしい。あまり暑くなく寒くない良い時期を…。
- 東京だけでなく地方の美術館巡りも！
- 近場ですが、静岡見直しツアーも手軽で良いかもしれません。
- ブリヂストン美術館では、思いがけず有名画家の絵画を多く鑑賞でき嬉しかったです。美術染織は、繊細でその豪華さに圧倒されました。歌舞伎は馴染み深い演目で、分かりやすく楽しく鑑賞出来ました。
- スケジュールの内容は欲張らず、ゆったりとした方が良いと思います。
- 盛りだくさんのメニューで楽しかったです。一日が充実していました。歌舞伎をこんなにゆっくり近くで見たことがなく、さすが古くから伝わる伝統芸能だと感動しました。難しいと思っておりましたが、とても分かりやすく、言葉がわからない外国人にも受けるのが分かりました。

### ◆旅行の際に、今後のご希望をお聞きしました。

<今後のリクエスト>

#### 美術館見学

- ・ 出光美術館・永青文庫・江戸東京博物館
- ・ 旧白洲邸 武相荘・国立新美術館・国立西洋美術館
- ・ 五島美術館・サントリー美術館・資生堂アートハウス
- ・ 世田谷美術館・東京国立博物館・東京都庭園美術館
- ・ 徳川美術館・根津美術館

#### その他

- ・ 歌舞伎座・東京スカイツリー

## muse 招待席

さんしんギャラリー善



### 展覧会スケジュール

- 9/2(金)～9/25(日) 彫刻家 重岡健治展
- 10/1(土)～10/25(火) 陶芸家 安陪均展
- 11/1(火)～11/25(金) 絵画家 青木洋子展
- 12/2(金)～12/25(日) 日本画家 大谷まや展

お問い合わせ  
TEL:055-991-0034  
入場無料

## 「夢・輝く未来へ」 佐野美術館とさんしんギャラリー善

三島信用金庫  
執行役員 小林 隆



会場には画伯の老練な笑顔がこだましていました。今年1月11日に、さんしんギャラリー善のオープニングを飾る展覧会が始まったのです。お客さまをお迎えする赤堀尚画伯が輝いていました。「ギャラリーを作ってよかった」担当者としての率直な気持ちでした。

三島信用金庫は、平成23年1月21日に創立100周年を迎えました。この記念事業として、三島市芝本町の本店建て替えに伴い、「さんしんギャラリー善」の新設を行いました。これは伊豆一円の文化芸術への振興と、芸術家への応援を目的としています。このギャラリーの新設と運営には、当金庫の稲田理事長のアドバイスもあり、佐野美術館様をお願いすることになりました。快く当金庫の趣旨に賛同いただき、設計段階から佐野美術館峰田理事長や渡邊館長、そして担当の田澤さんの全面的な協力を得て、2年間の歳月を費やし完成しました。

早いもので、7月までに7名の作家さんの展覧会を開催することができました。一回に千人近いお客様が来場されています。おかげさまで、まずは順調なスタートと思っています。

三島信用金庫創立100周年は、地域の皆さまあつての百年です。この気持ちを大切に、人々の文化芸術の発展につながればと思

っています。これからは、佐野美術館様や他の多数のギャラリーの方々とのつなぐ力で、地域の賑わいや文化芸術発展のためにPRやイベントを企画し、皆さまに喜んでいただけるギャラリーにしたいと考えています。地域に赤堀画伯のような“満面の笑顔”が次々といつまでもこだまし芸術が広がっていくこと、これが私の心からの希望です。「夢・輝く未来に向かって」



さんしんギャラリー善のオープニングにて語る赤堀尚氏



沼津のアトリエにて  
左より 三島信用金庫理事長 稲田精治氏、赤堀尚氏、佐野美術館館長 渡邊妙子、小林隆氏

## 新収蔵庫建設を応援しましょう！

ミュージッククラブ運営委員長 亀山千鶴男

佐野美術館が懸案だった新収蔵庫建設に乗り出すことになったため、ミュージッククラブとしても全面的に協力することになり、このほど会員皆様に対して文書で募金の呼びかけを行いました。

ミュージッククラブとしての募金協力は、過日開催のミュージッククラブ運営委員会で決まったものです。これを受けて当クラブは、8月中旬に全メンバーに佐野美術館の収蔵庫建設趣意書とお願いの文章をお送りしました。

佐野美術館は今年4月に公益財団法人として認可され、また今年秋には開館45周年を迎えます。この機会に、手狭になっている収蔵庫を新設し、公益財団法人としてふさわしい施設にレベルアップする計画です。

しかし、総事業費が2億5000万円程度と見積られるため、美術館はこのうちの1億円は企業、団体、個人に寄付を依頼することになり、2年がかりの募金活動を開始しました。美術館の賛助団体であるミュージッククラブとしても、できるだけの支援をしようということになりました。

厳しい経済情勢下ではありますが、会員皆様のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。